

東京新聞

●中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

家具・インテリア パモウナ

紙面について
●電話 03-6910-2201 (土日祝日除く) 9:30~17:30
●FAX 03-3595-6935
購読お申し込み 0120-026-999
1カ月定価税込み (朝・夕刊) 3250円
配達・集金について 03-6910-2556
TOKYO Web
www.tokyo-np.co.jp

討論型世論調査

「原発ゼロ」へ 変わる意見

将来の原発比率などエネルギーの選択で、国民同士が議論して意識がどう変化するかを調べる政府の討論型世論調査(DP)の討論会が五日東京都内であり、二日間の日程を終えた。討論会では「原発ゼロ」を強く求める声が圧倒的。討論を経て、原発ゼロへ意見を変える参加者もいた。政府が国民の声を政策に反映できるのかが焦点となる。(岸本拓也)

——関連②面

国民議論 反映なるか

この日のテーマは、三〇年時点の原発依存度を当初考えていた一〇二〇年のエネルギー選択のシナリオをた15%から0%へと意図的に変えた参加者が複数、女性九十四人、男性九十二人(佐賀県の女性)などとして、十五人中十人ほど政策に反映するかに議論した。

四日と同じ二百八人に分かれての討論。参加者は無作為に選ばれたが、あるグループは「将来子どもが安心して暮らすよ」をテーマに、政府は、DPの結果を「意見聴取会」の結果を基に、政府が「民意」として、十五人中十人ほど政策に反映するかを議論した。

参加者の主な意見

(討論前後の原発比率の変化)

0% ▶ 0%

- 広瀬孝一さん(74)**
=大阪府豊中市、自営業
これまで絶対にゼロにすべきだと思っていたが、簡単にゼロにならないと知った。急には無理でも、時間をかけてゼロに方向転換した方が現実的だと思うようになった。
- 沖田和美さん(34)**
=東京都大田区、会社員
ゼロシナリオで良いのか迷いがあったが、参加してゼロが明確になった。
- 武藤裕子さん(51)**
=岐阜市、小学校教諭
専門家話を聞き、漠然と怖いと思っていたが、放射能や原発への理解が深まった。再生エネをもっと増やすのは不可能ではないという思いが強まった。
- 大谷豊子さん(73)**
=東京都新宿区、主婦
すぐに変えられなくても、省エネや再生エネを研究しては何かかなるのではないか。原発のように生活を脅かすエネルギー政策には反対。
- 15% ▶ 0%
- 杉浦道代さん(65)**
=愛知県豊田市、不動産業
すぐに減らせないと、15%を支持していたが討論をしてもっと省エネや再生エネ(拡大)できるかもしれない、目標だけは低くしてはいけないと感じた。
- 丸山礼華さん(22)**
=広島県福山市、医療事務職員
西日本に住み、正直原発に関心なかったが、東北や計画停電の話や専門家意見を聞き、生活水準を下げるに値しないと思えるようになった。
- 0% ▶ 15%
- 高木穂津美さん(39)**
=東京都内、会社員
自分自身、震災前に自宅をオール電化にして原子力に依存してきた。専門家の意見を聞き、いざゼロにすることは厳しいと思うようになった。
- 20~25% ▶ 20~25%
- 自営業男性(63)**
=千葉県船橋市
原子炉をどんどん廃炉にすると、日本の技術が遅れていく。その先に新しい原子炉を造るつもりはない。

体操内村床で銀

男子銀、女子銅

ロンドン五輪第十日の五日、フェンシングは男子フルーレ団体準決勝でドイツを破り、銀メダル以上が確定した。フェンシング団体初のメダルで、決勝は同日夜(日本時間六日未明)にイタリアと対戦する。体操は種目別

競泳400メートル、男子銀、女子銅

競泳400メートル。第九日の四日、競泳の400メートルメドレーリレーで、日本は男子が二大会連続メダルで過去最高となる銀、女子はシドニー大会以来十二年ぶりのメダルとなる銅に輝いた。

男子400メートルメドレーリレーの北島康介(日本コカ・コーラ)は、日本競泳初の三大連続メダルリストとなった。この種目で男女そろってのメダル獲得は初めて。競泳は全日程を終え、日本は銀三、銅八の計十一個のメダルを獲得し戦後最多となった。

五日の上女子マラソンでは、日本の木崎良子(タイハツ)が十六位、尾崎好美(第一生命)が十九位、重友梨佐(天満屋)が七十九位に終わった。優勝はエチオピアのティキゲラナで、オリンピ



日	12	15	18	21	24	7(火)	8(水)	9(木)	10(金)	11(土)	12(日)
最高気温	32	31	31	31	31	32	32	32	32	32	32
最低気温	24	24	24	24	24	25	25	25	25	25	25
降水確率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

日	7	8
最高気温	34	34
最低気温	26	26
降水確率	0	0

日	7	8
最高気温	34	34
最低気温	26	26
降水確率	0	0

山口知事選

脱原発の大波

選挙にじわり

首相官邸前で毎週行われる抗議活動など、脱原発を求めた国民の声が広がっている。だが原発を争点に七月二十九日に行われた山口県知事選は、脱原発勢力が推す候補が負け、投票率は五割に満たなかった。同日八日の鹿児島県知事選も結果は同様で、世論の高まりと地方選に「ずれ」があるようにみえる。だが、分析すると「脱原発効果」は既に地方選に表れ始め、民意は反映されていることが分かる。

(関口克己、上野実穂)

山口県では中国電力が約二十万二千票を得て当選。飯田氏は約十八万五千票、投票率は45%だった。

明治学院大の川上和久教授(政治心理学)は、投票率が伸び悩む理由には、山本氏が「一騎打ち」になった。だが理由は、山本氏が「民意」として、十五人中十人ほど政策に反映するかを議論した。

推進公約避ける候補者

脱原発勢力が勝ち取った面があるという見方だ。世論が脱原発を求め続けるには、次の衆院選に向け、各党マニフェストの政策に影響を及ぼすのを証明したとみえる。

埼玉大の松本正生教授(政治意識論)は、投票率について「前回より8%以上上がったのは、脱原発を争点にした選挙場面で、死ぬかの。素朴に胸を打たれる。後、元気があった。斑点が肌に見れず、期が近い。見え方の近い。見え方の近い。見え方の近い。

脱原発の大波 選挙にじわり

そのうちに、脱原発の大波が選挙にじわりと押し寄せてくる。民意は反映されていることが分かる。